

ななくらさん 原生林 七座山

●静寂と神秘の山

権現座、烏帽子座、蓑座、芝座、三本杉座、大座、松座、七つの峰が連なるなだらかな美しい稜線を、対岸のきみまち阪から望むことが出来ます。

山中いたるところに露出した巨岩の間や岩の真上に、樹齢300年あまりの野生の杉巨木が根を張り、大きな枝で天空を覆い隠す光景は迫力に満ちています。かつては修験者の修行の場だったといわれるこの山には『巨大な竜・八郎太郎』の伝説も残されており、朝霧に煙る風景は神秘的な美しさを漂わせています。

●七座山の歴史

七座山は藩政時代、藩にとって最も大切な御直山おしきやま（藩が管理運営する山林）として保護されてきました。ニツ井一帯の数多い杉の美林の中から、この地が御直山として大切に守られたのは、山の下を川が流れていたからと考えられています。幕府から緊急な木材納入の命令があった場合、川を利用して短時間で木材を運ぶことができるという地の利が重視されたのでしょう。

藩有から国有に移ってからも営林署の保護を受け、七座山はまれに見る見事な自然林となりました。大正4年には国の風景林の指定を受けています。また、きみまち阪から望む七座山の姿は迫力に満ちた美しさを誇り、昭和58年には新観光秋田30景のひとつにも選ばれています。

七座山は、昭和39年にはきみまち阪とともに県立自然公園に指定されています。

●七座山の植物の特徴

藩政時代から保護されてきたこの山は、植物が豊富で他に例をみない宝の山です。

西側の稜線は、日本海からの冷風の影響を受け、高山性のアカミノイヌツゲ、ウラジロヨウラクなどが生育しています。風の当たらない東側斜面は植生が一変し、見事な天然杉(80%)と広葉樹(20%)の混生林となっています。広葉樹は種類が豊富で、なかでもクロビイタヤ、エゾヒノキ、アワブキの生育は珍しく、また、ブナは標高100m内外の所から多数分布し、低林帯ブナ林として貴重です。

林内には、キバナハシリドコロ、クルマバツクバネソウなどの貴重種が生育しています。



▲アカミノイヌツゲ
八幡平などの高山地帯にしか分布していない植物。



▲タチカメバソウ
歩道脇の斜面に群生し、葉が亀の甲に似ている。当地名はウグイスナ。



▲ヤマジロホトトギス
花の斑点が鳥のホトトギスに似て、山路に多いことからこの名がついた。



▲ナニワズ
北海道から本州日本海側の山地に分布。茎の皮が強く別名エゾオニシバリ（鬼縛り）。



▲クロビイタヤ
北海道に多く生育することからエゾイタヤとも呼ばれ、秋田県ではきわめて稀。



▲ハシリドコロ
猛毒があり、中毒すると走り回って苦しむことから。秋田県では数カ所しにのみ生育。

【天神様と八郎太郎の伝説】

昔々、十和田湖の主であった『八郎太郎』は南祖坊との戦いに敗れ、米代川を下って七座山のあたりをせき止め、湖を作り安住の地としました。しかし湖水の水かさとはどんどん増し草木を埋めてしまうので、その地の神である八座の神々は困ってしまい、八郎太郎をよそへ移す手段はないか神々の中で最も深慮遠謀とされる天神の神様に考えてもらいました。

ある日天神様は八郎太郎と力くらべをしました。大きな石をどちらが遠くまで投げられるか試したのです。自信満々に投げた八郎太郎よりもずっと遠くまで天神様が投げたことで、八郎太郎は天神様には素直になりました。そこで天神様は八郎太郎に、よそへ移り住むように話を持ちかけました。「このように浅く細長い場所では窮屈だろう。男鹿半島の方に際限なくひろびろとしたところがあり、そこを住処とすれば龍王の宮殿になると思うよ」と話したのです。すると八郎太郎もその気になったので、天神様は八座の神々に話し、湖水をせき止めている山に穴を開けるよう白ネズミに命じました。神々の命によ

りおびたしい数の白ネズミが現れたため、富根と鶴形のネコ族がネズミを捕まえようと三日三晩襲ってきました。困った神々はネコ族に「四季ノミをつけないようにするからネズミを襲うのを止めなさい」とさとし、ネコたちを繋ぎました。繋いだところはネコツナギと呼ばれ、やがて一文字がはぶかれコツナギになったと言われていました。小繋集落には今も「禁鼠大明神」の祠が現存しており、七座神社でもネズミ除けのお札をわけています。こうして白ネズミたちは穴を掘り開け、一気に流れ出た湖水により大洪水がおきて八座のうち的一座が押し流され、切石集落に引っかかり七折山になったと言われていました。ひとつ減った八座は七座となり七座山の名前の由来となりました。

濁流の波に乗って米代川を下った八郎太郎は、男鹿半島の近くの広大な潟に辿り着き住み着くことになりました。そこが八郎潟だと言われています。



八郎太郎が投げたと伝えられる岩

登山口詳細案内付き



ななくらさん

七座山マップ

ポケット版

お問合せ NPO法人 ニツ井町観光協会 TEL0185-73-5075

発行 能代市ニツ井地域局総務企画課 TEL0185-73-2112

至 日本一高い天然秋田杉

登山口詳細案内図

()内はメートルによる距離表示です

七座山の天然秋田杉



七座山の天然秋田杉林は藩政時代を思わせる、スギの巨木と広葉樹が入り混じった原生林と、明治期に美林と称されるようになった、当時の森林がそのまま残っているとされています。この七座山の天然秋田杉の巨樹の迫力と美林の美しさを、車道から1分で体験できるポイントを紹介します。

- 1 道路沿いにあり、山に入らずに触れることができる巨樹です。
○胸高直径: 146cm、幹周り: 458cm
- 2 七座山最大の巨樹。道の駅ふたついの「埋もれ木」とほぼ同じ大きさです。
○胸高直径: 161cm、幹周り: 506cm、樹高: 47m



山神様 (さんじんさま)
山仕事の安全守護の神様。七座山の聖観音は天長2年(825)に弘法大師によって彫られた。



法華の岩屋 (ほっけのいわや)
蜂の巣状の窪みが無数にある巨大な岩屋。昔は行者の修行の場所であったといわれている。



権現様 (ごんげんさま)
天安元年(857)に慈覚大師によって彫られたといわれる獅子頭が、巨岩の下に祀られている。

登山コースガイド

数カ所の登山道が山の中腹を横に走る遊歩道で結ばれていて、いろいろなコースが選べます。体力に合わせたコースで、七座山を満喫してください。

権現座(倉)コース (約140分) 体力★★

山神様、権現様、法華の岩屋など、七座山の見どころを全て楽しめるコースです。
登山口①～山神様～権現様～法華の岩屋～権現座(倉)～養座(倉) 展望台～登山口②

七座縦走コース (約180分) 体力★★★

七座山の七つの峠を縦走するコースです。日本海からの涼しい風を受けて、心地よい汗をかきましょう。
登山口⑤～松座(倉)～大座(倉)～三本杉座(倉)～芝座(倉)～養座(倉) 展望台～烏帽子座(倉)～権現座(倉) (往復)

オススメコース (約80分) 体力★

気軽に散策を楽しめるコースです。権現様や七座山の原生林を眺め、展望台からの景色を楽しめます。
登山口①～山神様～権現様～東屋～養座(倉) 展望台～登山口②

凡例
— 権現座(倉)コース
— 七座縦走コース
— オススメコース
— 登山道
①～⑦ 登山口
◎ 展望台

ニツ井小学校

能代市ニツ井地域局

伝承ホール

ニツ井町総合体育館

ニツ井中学校

米代川

銀杏山神社

天然記念物の銀杏

ニツ井駅

能代高校

ニツ井キャンパス

至 藤里町

藤琴川

きみまち大橋

きみまち阪
県立自然公園

NPO法人
ニツ井町観光協会

道の駅「ふたつい」

至 北秋田市

七座神社

七座神社は、658年阿部比羅夫が蝦夷征伐のため訪れた際に戦勝祈願のため建立したといわれています。また、境内には幹周日本一のクロビイタヤが生育しているほか、コロボツクルの遺跡があるといわれています。

